

發して江戸に赴いた際、權兵衛は之に供奉したが、武藏國鴻巣に於いて大聖寺藩臣江守彦左衛門の若黨の爲に斬られて死んだ。

イシグロサダノリ 石黒定規 通稱源右衛門。延寶三年祿七百五十石を受け、御馬廻に屬し、新川郡奉行となつたが、元祿二年御免、九年六月歿した。後生前勤方宜しからず、殊に分際不相應の借銀があつたから、子彦太夫成府(一作成從)・源八郎定泰二人に三十人扶持を給し、餘は祖頭に預つて辨償の資に當てた。定泰の子彦右衛門季陳、成府の後を繼ぎ、享保十八年初めて祖父遺知の内五百石を賜はつた。

イシグロチヒロ 石黒千尋 初の諱は克巳。通稱萬五郎・左門・嘉左衛門又は九十九。天保年中鈴木重胤の金澤に來た時、千尋深く之と交つて國典の説を聴き、橘守部の來た時も亦就きて和歌を學び、傍ら田中躬之にも師事して、家を竹之舎といつた。嘉永五年千尋明倫黨國學講釋御用を命ぜられ、躬之等と共に教授の任に當り、六年米露の軍艦來りて互市を求め、世論紛々として起つた時、千尋は來舶神旨・近世諸著來舶集等の書を著し、又海外互市適神旨歌並に短歌を詠じ、外國通商が列聖の遺獻なる所以を論じ、世人の迷夢を覺醒せんことを期した。維新の後千尋皇學講師又は文學教師となり、明治五年八月五日歿した。年六十九。

イシグロドウイチ 石黒道一 初め元丈。諱は義門。文政五年十二月新知七十石を受けて御醫師となり、天保八年五月四日四十八歳を以て歿した。子道以その後を襲ぎ、又十二人扶持を受けて御醫師であつた。

イシグロトモチカ 石黒知幾 通稱太郎左衛門。字は慎微、脩身齋と號し、詩賦を好んだ。正徳四年養父知左衛門房之の後を承けて祿五百石を領し、大小將御近習番に任じ、享保十三年十一月廿一日五十一歳を以て歿した。

イシグロナブチ 石黒魚淵 通稱堅三郎。明治の後諱を名とした。號は晚香又は九如。文化十四年寺内氏に生まれ、後石黒判太夫の養子になつた。魚淵國學歌道に志して田中躬之等に學び、弘化以後世子近習・改作奉行・産物方・軍艦方・大坂留守居役の職を奉じ、元治元年南越の事變にも出動した。明治以後は民部省庶務司准大祐・高崎縣小參事となり、明治廿一年伊勢の神宮教本院に奉職し、次いで愛知本部に轉じ、廿三年四月二日歿した。享年七十四。その著に詞の山比古、旭櫻雜誌、葉役日録(不破亮三郎・歸山仙之助共編)等がある。

イシグロナリヒデ 石黒成榮 越中木船城主石黒氏の族人であつた。通稱九郎太夫。初め京に流浪し、前田利家の能登に在つた時來仕して千五百石を受け、文祿三年隱居した。
イシグロノブモト 石黒信基 通稱藤太郎。藤石衛門。越中射水郡高木村石黒信之の子。嘉永六年七月同郡新田裁許となり、爾後能美郡安宅港水矯、礪波郡庄川筋主附・射水郡海邊澗廻勢子役・常願寺川除書請方繪圖調製・石川郡宮腰港測量等の事に當り、文久三年四月三州測量繪圖校正を命ぜられ、慶應二年敦賀から糧道を開鑿する目的で琵琶湖までの水矯測量を命ぜられる等の功績が甚だ多かつた。明治二年九月十八日歿、享年三十四。著書に綴

術彙解・雨水氣推歩・日躔推歩・月蝕推歩・四圍傍斜矩合・算法淺問抄解・求積通解等がある。
イシグロノブヤス 石黒信易 越中射水郡高木村石黒信由の子。通稱藤助。父に學んで關流の算學に達した。弘化三年正月二十日享年五十八を以て歿した。

イシグロノブユキ 石黒信之 通稱藤右衛門。越中射水郡高木村石黒信易の子。文化八年を以て生まれ、江戸の内田五親に入門して、關流算法圖理の通信教授を受け、又信由の稿本を留めたる増補加越能大路水經を修補完成して藩に提出し、嘉永五年四十二歳を以て歿した。
イシグロノブヨシ 石黒信由 通稱與十郎。藤石衛門。高樹又は松香軒と號した。越中射水郡高木村の人。寶曆十年十二月生。天明二年富山の人中田文藏高寛に就いて關流の算學を學び、四年祖父の後を繼ぎ、寛政八年算學の允可を得、又測量術を宮井安泰に、天文・曆學を西村篤行に習ひ、共に堂に入つた。之を以て藩信由に命じて、檢地・排水・開墾等の事に従はしめ、功を立てたことが尠くない。文政元年四月藩の新田裁許に任ぜられ、二年正月遠藤高環監督の下に加越能三州地圖作製の内命を得、七年加越能略地圖及び村名簿三冊を上つて、年々五人扶持を受け、天保六年三州地圖成り、七年七月十五人扶持を給せられ、射水郡の年寄に列したが、同年十二月三日七十七歳で歿した。藤助信易・藤石衛門信之・藤右衛門信基相繼ぎ、信由は大正六年十一月十七日從五位を追贈せられた。信由の算學に關する著凡べて百二十六部二百二十四冊、その中數學定位捷法は寛政十一年に、算

學鉤致三卷は文政二年に、渡海標的天保七年に開版せられて居る。又嘗て土屋義休の著した大路水經に、温泉の所在、湖沼の廣狹、地域の大小等を修補し、増補加越能大路水經六冊をなした。

イシグロフサカツ 石黒房勝 通稱善九郎。越中木船城主大炊助光教の末男。天正九年前田利家に仕へ、祿千俵を受けたが、後徳川家康に召出され、尾張侯に附屬せしめられた。
イシグロマサナガ 石黒政長 一向一揆の首領で、通稱を土佐守といつた。天正四年八月廿一日附下間刑部卿法眼宛所の訴狀連署中に、その名が見える。政長と書いたのもあるが、同年の他の文書に徴するに誤寫であらう。
イシグロマタ 石黒又 河北郡湯涌郷に屬する部落。

イシグロミチヒサ 石黒道尚 通稱嘉左衛門。父は表坊主で後小頭になつた圓水であつた。道尚亦初め淵水といつて御居間方坊主であつたが、明和九年御近習歩として四十俵を受け、安永五年八十俵を加へ、天明二年新番となり、寛政元年百石を受けて組外に列した。十二年又五十石を加へ、文化四年九月十八日七十歳を以て歿。子孫藩に世襲した。

イシコ 石子 能美郡山上郷に屬する部落。
イシサカ 石坂 石川郡五ヶ庄に屬する部落。
イシサカ 石坂 羽咋郡邑知院内菅原庄に屬する部落。

イシサカ 石坂 鳳至郡内保の内の小字。
イシサカ 石坂 珠洲郡南方の内の小字。能登誌に、『南方の散村石坂といふ所は、